

星の辞典 海の器の部

桑原 徹

I 蛸と宝石

臓器の下に宝石をかくして蛸が泳ぐ 海には太陽が沈む
ダイバーが海にもぐるのはこの時だ 海面では赤い水が砕け散り
海底で器の中に手をつつこんでとるのは蛸と濃い緑の石だ

II 死んだ海の器

器は口を開いたまま永遠に沈黙している
客は器を買ってゆくとその口に口を押しつけ 宝石のありかを確かめようとする
だが暁近くなっても舌の先に触れるのは碧い海の味だけだ

III 女神と二枚貝

器の中の器の美しい器に海が必要ないように
女神が宝石を必要としていることを知って人は海にもぐる
この小さな器と言えどかたちは肉の構造に由来している

IV 女神像

最後に降りていった者も二度と帰ってこなかった

こんな書き出しで終わる物語も二度と生まれなだらう

ああ 海の阿片よ 娼婦はこう言い終えると自らの器を祭壇の女神に返した

五期作の断片の書き
おまじなまかしつづけ

V 目を開いた女神

美しい器を割らずに内部を見られるか ついに裸体にはならなかった女神よ

口ははじめからおのれのものか 問いかけには応えず女神ははじめから目を開いたままだ

聖神書のはまよの寄これさ書し
海へゆく

歌の死傷と銀をひそめて
おまじなまかしつづけ

（魂を脅かすこのエニシダの
目球裏の狂乱の絶句の枝に

精気騰ゆる動盪
金吾郎のことしかへ夢見ない私への

おまじなまかしつづけ
おまじなまかしつづけ

神玉

